

ドングリ類の豊凶調査結果と ツキノワグマ出没注意喚起について

森林動物研究センターが兵庫県下のドングリ類（堅果類）の豊凶調査を実施したところ、今秋のドングリ類の実りは、全体としては14年ぶりの「大凶」であることが判明しました。[資料1 参照](#)

また、今秋のツキノワグマ（以下、クマ）出没数は、但馬地域や西播磨地域、丹波地域などのクマの生息地域の多くでは、過去5ヶ年平均の2～4倍になると予測され、冬眠前のクマが餌を求めて人里へ大量出没する可能性が危惧されます。[資料2 参照](#)

一方、近年では、恒常的な出没や分布域も拡大傾向にあることから、これまで出没の少なかった地域においても、ハイキングや登山、キノコ採集などに出かける際はもちろん、人里やその周辺においても、クマの被害に遭わないように、十分な注意をお願いします。

1 山の実りの状況（速報）

ブナ	コナラ	ミズナラ	3種全体
大凶	凶	大凶	大凶

2 目撃・痕跡情報数

県民等から報告された今年度のクマの目撃・痕跡情報数は、8月31日現在で449件と同時期としては過去最高値※となっています（過去最高H22:386件、過去5ヶ年平均：262件、過去10ヶ年平均：302件）。特に、北但地域253件（過去5ヶ年平均139件）、南但地域97件（過去5ヶ年平均45件）が非常に多くなっています。[資料3 参照](#)

※過去最高値……本県が調査を開始した平成13年度以降

3 本年度の被害発生状況

- (1) 人里周辺にクマが出没した地域では、多くの住民が不安を訴えるなど精神被害が生じており、また、7月以降、果樹園への出没や、人里に植えられているカキなどの食害が県下各地で発生しています。
- (2) 昨年度、一昨年度と発生がなかった人身被害は、7月に1件養父市で発生しています。

4 対応

- (1) クマの出没地域では、
 - ① 人里であっても、夕方から朝の時間帯の外出に注意する
 - ② 不要なカキの木の伐採や、カキの実の早めの収穫を行う
 - ③ 果樹園は電気柵を設置する
 - ④ クマを誘引する生ごみを屋外に置かないなどの対策が重要です。
- (2) ハイキングなどでクマの生息する山林に入るときは、音響物（ラジオ・鈴等）を携帯し、出会い頭の遭遇を避けることが重要です。[資料4 参照](#)
- (3) 大部分のクマが冬眠に入る12月下旬頃まで、十分な注意が必要です。
- (4) クマを目撃した場合、また食害跡、足跡、爪痕などを見つけた場合は、市役所・町役場へすみやかに連絡するようにお願いします。

添付資料	資料1, 2	堅果類豊凶調査結果概要（速報）
	資料3	ツキノワグマの目撃・痕跡件数（R6.8.31現在）
	資料4	ツキノワグマの被害防止パンフレット

堅果類豊凶調査結果概要

■ 豊凶の判定基準

豊凶区分	大豊作	平年値を基準とした場合、極大値の2/3以上
	豊作	平年値を基準とした場合、極大値の1/3以上2/3未満
	並作上	平年値を基準とした場合、極大値の1/3未満
	並作下	極小値を基準とした場合、平年値の2/3以上
	凶作	極小値を基準とした場合、平年値の1/3以上2/3未満
	大凶作	極小値を基準とした場合、平年値の1/3未満

■ 過去5年間の豊凶判定

	樹 種	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
豊凶区分	ブナ	大凶作	豊作	大凶作	大凶作	大凶作
	コナラ	凶作	並作下	並作上	豊作	凶作
	ミズナラ	並作下	凶作	並作上	大凶作	大凶作
	3種総合	凶作	並作下	並作上	凶作	大凶作

豊凶指数

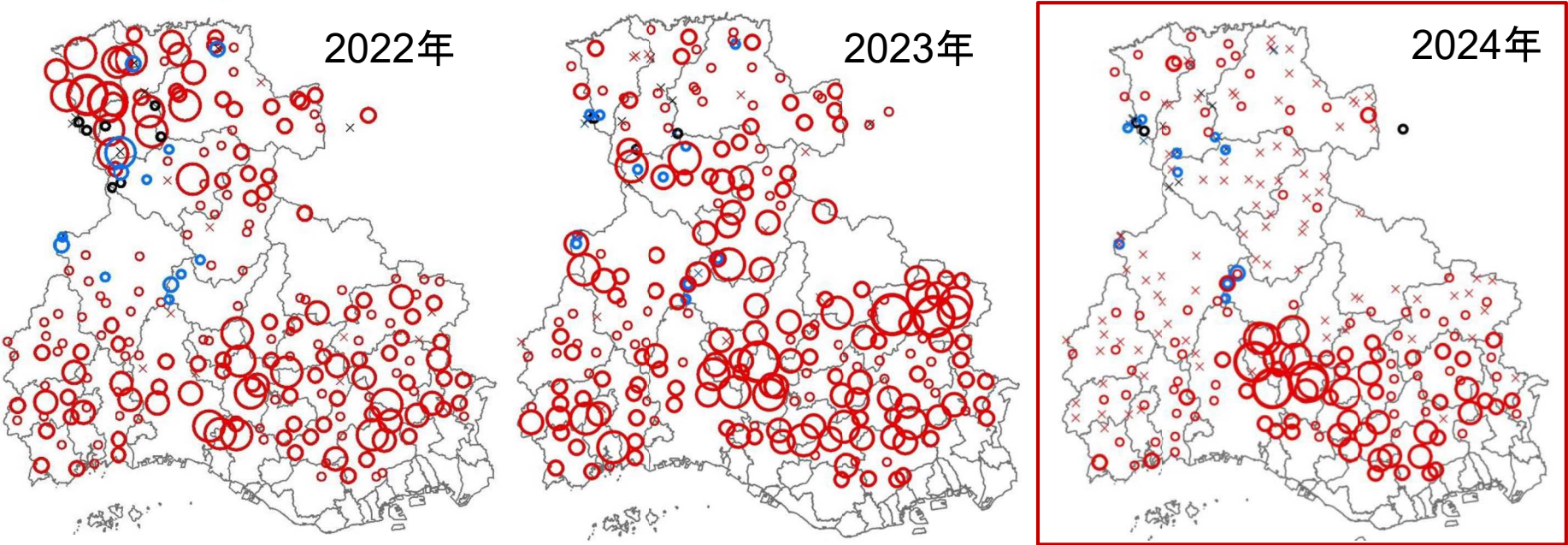
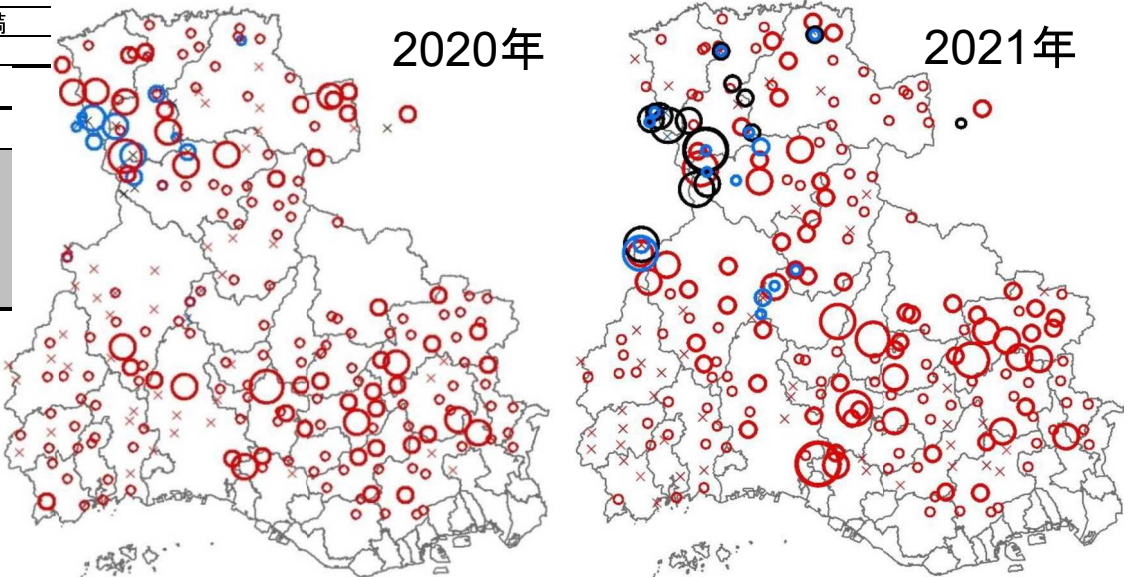
ブナ コナラ ミズナラ

×	×	×	0	ほぼ全く結実がない
○	○	○	0.1 - 0.6	ほとんどの木で、少量以下の結実
○	○	○	0.7 - 1.2	多くの木で、並みの結実
○	○	○	1.3 - 1.8	一部の木で大量の結実
○	○	○	1.9 - 2.4	半数以上の木で大量の結実
○	○	○	2.5 - 3.0	ほぼ全ての木で大量の結実

■ 調査手法

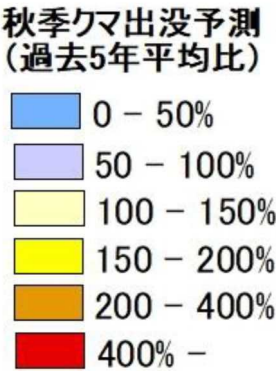
- ・ 観測地点数は、コナラ218地点、ブナ15地点、ミズナラ19地点である。
- ・ 8/27-9/7の期間に、各観測地点で調査を行った。
- ・ 各地点では、10本の供試木を目視し、その豊凶度を4段階(0,1,2,3)判定した。
- ・ 10本の供試木の豊凶度の平均値を、その地点の豊凶指数とした。

資料 1

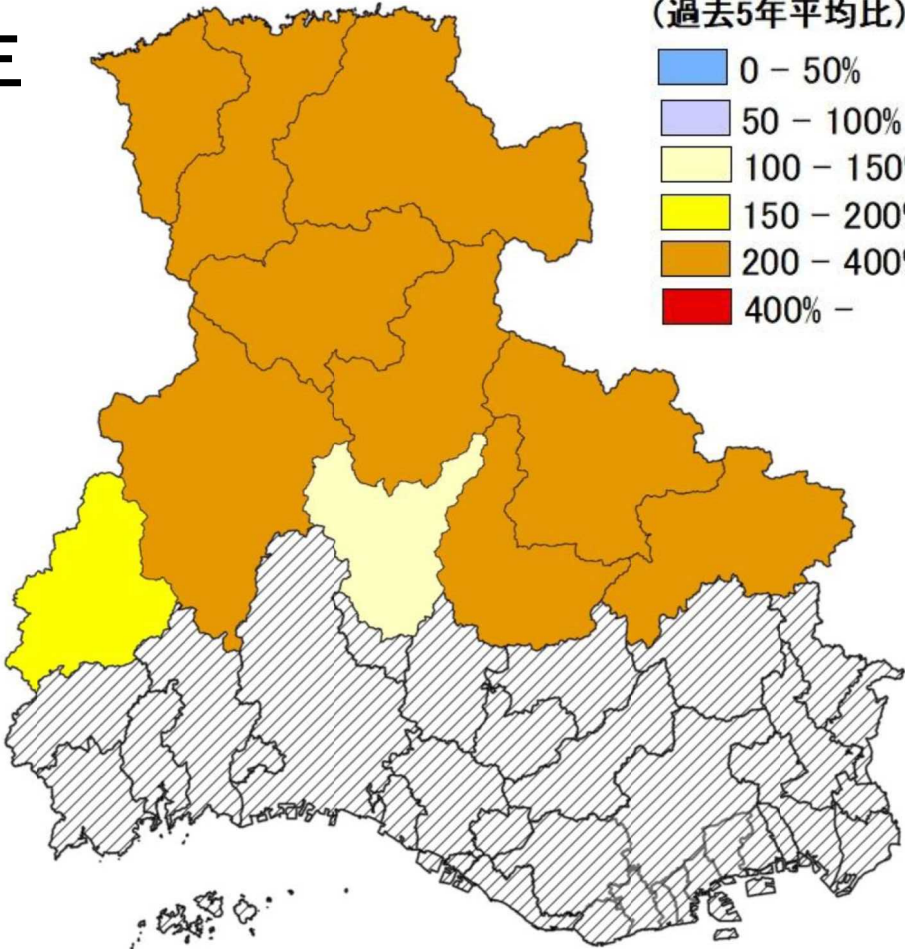
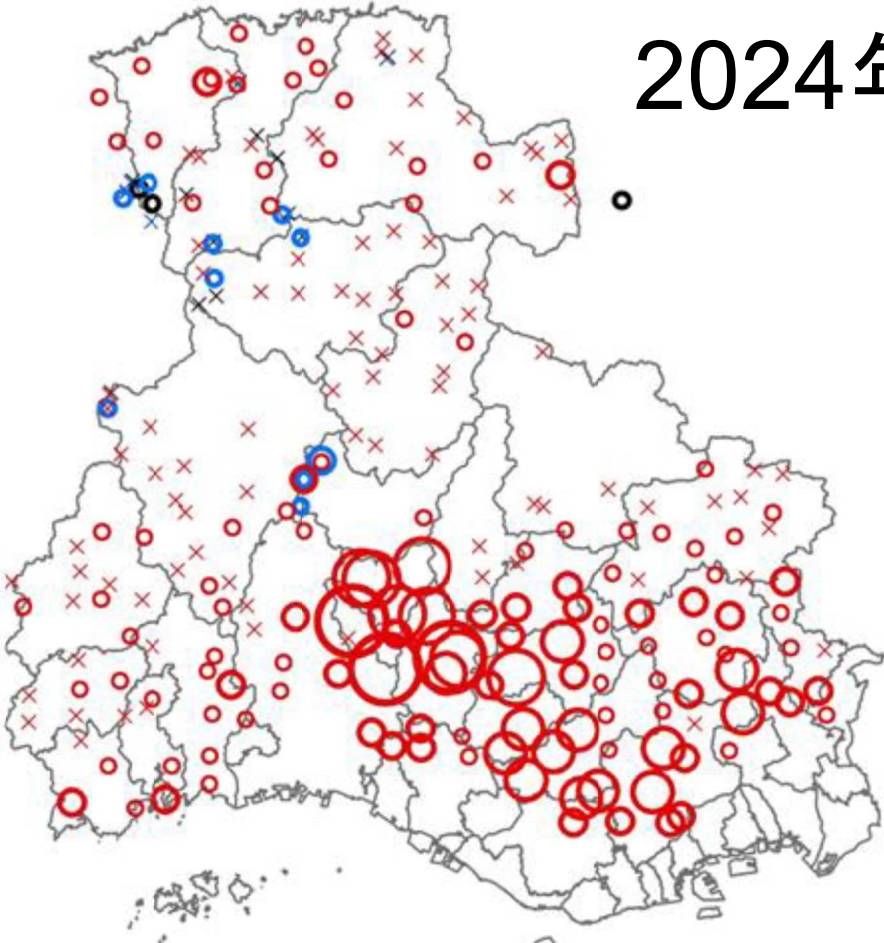


堅果類豊凶と秋季(9~11月)のクマ出没予測

資料2



2024年



ブナ	コナラ	ミズナラ	全体
大凶	凶	大凶	大凶

	過去5年 平均比
県全体	200~250%

ツキノワグマの目撃・痕跡件数

【全県集計】

(単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	合計
令和6年度	17	72	141	100	119	449
過去5ヶ年平均	17	47	62	69	67	262
過去10ヶ年平均	18	56	80	73	76	302
過去最高年(H22)	7	21	66	61	231	386

【北但地域】

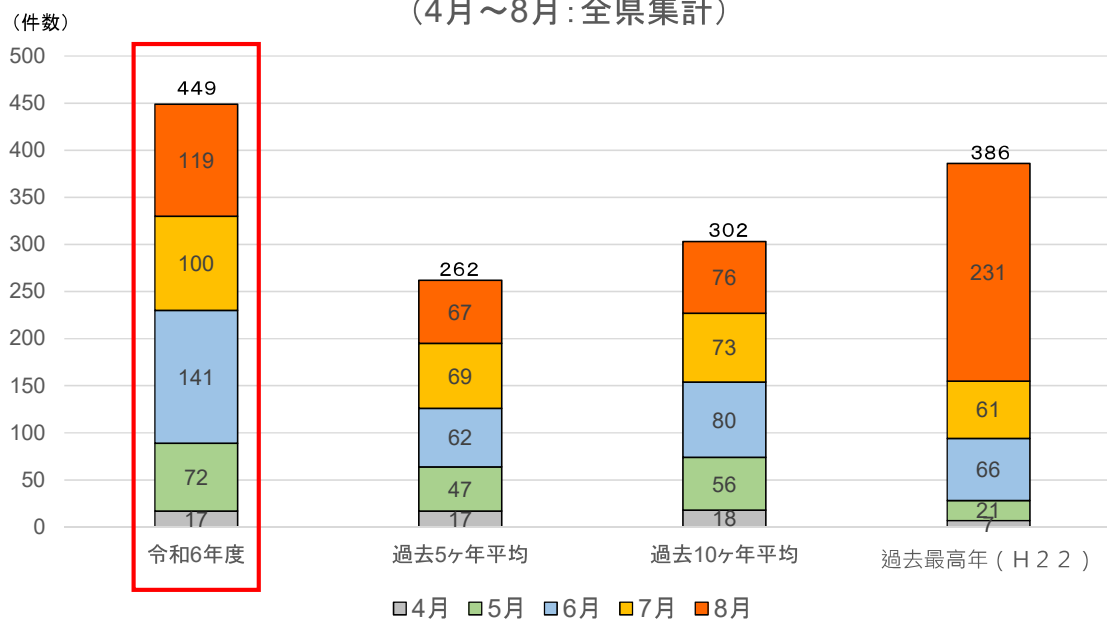
(単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	合計
令和6年度	5	35	89	56	68	253
過去5ヶ年平均	7	27	32	39	33	139

【南但地域】

(単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	合計
令和6年度	4	18	24	16	35	97
過去5ヶ年平均	4	7	11	8	16	45

ツキノワグマの目撃・痕跡件数
(4月～8月:全県集計)

ツキノワグマの被害防止

棲み分けによる共存をめざして



ツキノワグマの生息数は絶滅の危機を解消するまでに回復しました。また、県内には2つのツキノワグマの地域個体群があり、2022年からは隣接府県と連携した広域での保護管理に移行しています。一方、ツキノワグマが集落へ出没し、人身被害や生活被害、農作物被害などが問題となっています。兵庫県では人とツキノワグマの棲み分けによる、共存をめざしています。

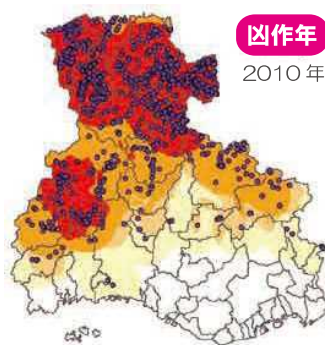
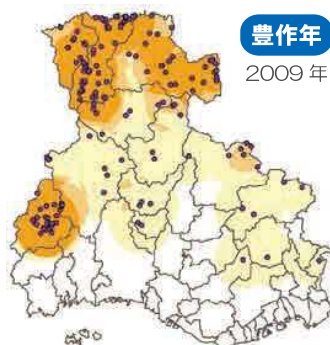


出没状況

人とクマの遭遇

豊作年と凶作年の出没状況

ドングリやブナなどの山の実りが凶作の年は、人里への出没が増えます。



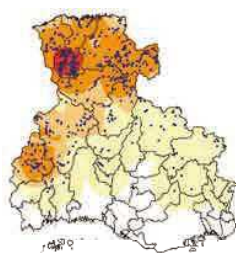
但馬地域と西播地域の山間部が分布の中心です。最近では丹波地域や北播地域、阪神地域への出没も増えており、分布域が拡大しています。

冬眠前の秋に里へたくさん出てくることがあります。また、交尾期の初夏にも行動範囲が広がり夏期での出没が増加しています。

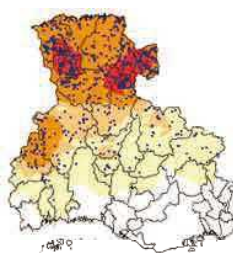
● 目撃位置
目撃回数（周囲 10km あたり）
5 回未満 10 回未満 50 回未満 50 回以上

出没状況の変化

これまで目撃や捕獲がなかった地域での報告があるなど、クマの分布域が拡大していると推察されます。



2007-2009



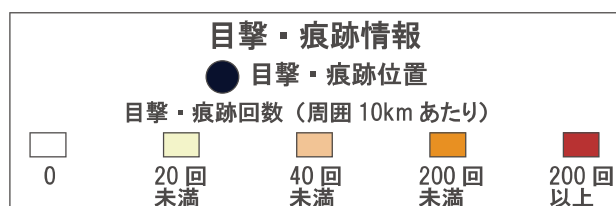
2011-2013



2014-2016



2017-2019



写真提供：橋本敬男氏



被害状況と痕跡

カキ、クリ、ナシ、ブドウ、リンゴなどの果樹や、カボチャやスイカなどの野菜を食害することがあります。牛舎の餌や養蜂巣箱、ニワトリ、倉庫に保管してある食べ物なども被害にあうことがあります。また、樹上にクマ棚を作ったり、樹皮にツメ跡を残します。糞や足跡を残すこともあります。

被害状況



リンゴ食害



ニワトリ食害



牛舎侵入



養蜂巣箱破壊

痕跡



クマ棚



糞



ツメ跡



成獣オスの足跡



生活史と出沒の関係

生活史

クマの行動が活発になるのは、初夏の交尾期と秋の飽食期です。交尾期は特にオスが行動圏を広げるため、通常クマが出没しないような地域にまで移動することがあります。

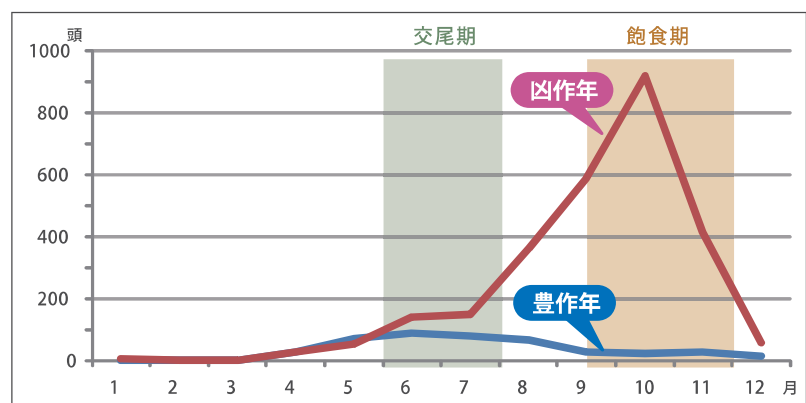
飽食期は、冬眠に備え食欲が増すため、食べ物が大量に得られる場所に長時間滞在し食べ続けます。

生活史	冬眠				交尾期				飽食期			冬眠
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
オス	メスを求めて 行動圏を広げる											
妊娠メス	↑ 出産 (1～2頭) 授乳			子連れ期				出産した メスは発情しない			子どもと同一の 冬眠穴に入る	
子連れメス	子連れ期					子別れと発情					↑ 妊娠	

山の実りと出沒

クマが好むドングリや果実が凶作の年には、人里のカキや生ゴミなどに誘引され、夏以降に大量に出沒することがあります。

豊作の年には、人里での目撃はほとんどなくなります。ただし、初夏は交尾のため、行動範囲が広がり目撃が増える傾向にあります。



月ごとのクマの目撃件数（2005年～2010年の合計）



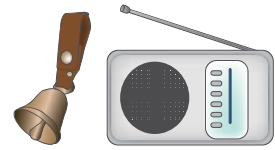
被害対策

出会わない！呼び寄せない！

ばったり出会わないために

① 山林に行くときは音の出るものを携行しましょう

山や森林付近の農地に出かけるとき、あるいは夜間に外出するときは、鈴やラジオなど音の出るものを身に付けましょう。とくに雨の日や川沿いは、人間の臭いや物音がクマに伝わりにくいので、大きな音を出しましょう。



② 人里でも夕方から朝までの外出は注意しましょう

クマは夕方から早朝にかけて、人里に出没する可能性が高くなります。この時間帯は、カキやクリの木の近くなど、クマがいそうな所に近づかないでください。

悪いクマにさせないために

集落への出沒や、農作物被害を放っておくと、クマの行動がエスカレートして、悪いクマになっていきます。

① 誘引物の除去

- ・ゴミを野外に置かないようにしましょう

ゴミ（とくに生ゴミ）はクマを誘引します。屋外に置かないようにしましょう。また、田畑への残飯まき、収穫しない野菜の放置も厳禁です。



- ・食料は、屋内に収納しましょう

クマは臭いにとても敏感です。屋外や侵入できる納屋などにある食料に気づいて、食べにくる恐れがあります。果物、穀物、ペットフードなどは要注意です。

- ・不要なカキやクリの木は伐採しましょう

収穫しない不要なカキやクリの木は、出来るだけ伐採しましょう。伐採が困難な場合は、防護するか、果実を早めに取り除きましょう。



カキの木の伐採

② 環境整備

住居や通路周辺にクマがひそみやすいヤブがある場合は、刈り取って見通しをよくしましょう。



近寄りやすい環境



近寄りにくい環境

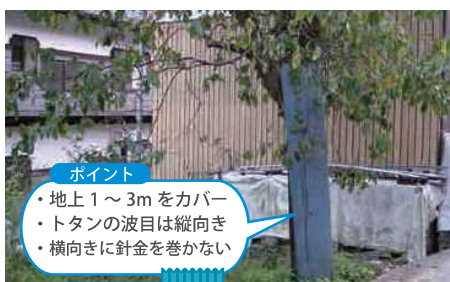
刈払い

収穫

③ 防護

トタン巻き

クマが登るカキやクリで不要なものは出来るだけ伐採しましょう。切れない木には、幹にトタンを巻きつけ、クマが登れないように防護します。



ポイント

- ・地上1～3mをカバー
- ・トタンの波目は縦向き
- ・横向きに針金を巻かない

電気柵

果樹園や養蜂巣箱は、電気柵で守りましょう。クマの侵入ルートがわかっている場合は、周辺のヤブを刈り払い、侵入ルートを横切るように電気柵を張ります。



ポイント

- ・一段目は20cm程度
- ・漏電防止の為、要草刈



こんなときに人身事故が起きます

(兵庫県では2010年以降17回の人身事故が発生しています。)



クマは、通常人を避けて生活する動物ですが、急に会おうと相手に一撃を加え、逃げるという習性があります。大きな爪と牙を持っており、一撃により人が死亡するケースもあります。

① 夕刻から早朝の時間帯

クマは日の出、日の入りの時間帯に採食行動が活発になります。夜間は行動が大胆になります。

② 食べ物に執着しているとき

クマはたくさんの食べ物を見つけるとその場所に執着し、近づくものに対して威嚇や攻撃をすることがあります。

③ 人とクマとがはちあわせしたとき

ほとんどの場合、クマは音や臭いによって、人の接近に気づいて逃げます。雨の日や川沿いなど、音や臭いが消される状況で人が急に近づく、驚いて攻撃することがあります。



もし出会ってしまったら

※相手が野生動物である以上、絶対に安全を確保できる方法はありませんが、一般論として言われている内容を示します。参考にしてください。



クマがこちらに
気づいていない

気づかれないように静かにその場を立ち去る



クマがこちらに
気づいている

ゆっくりと後退しその場を立ち去る



大声を出したり、走ったりするのは、かえってクマを興奮させます。落ち着いて状況をよく判断してから、刺激しないように、その場からゆっくり立ち去りましょう。



集落にクマが出没したら

- ▶ 周辺の住民に知らせ、近づかないよう安全確保を徹底しましょう。
- ▶ クマの出没を、市役所・町役場へ連絡しましょう。
- ▶ 夜間にカキの木に登っている場合などは、無理に追い払いせず、翌朝クマが山に帰るのを待って、防護対策を行ないましょう。

追い払い

花火、爆竹などで追い払います。危険を伴いますので、個人では実施せずに、市役所や町役場にご相談ください。



捕獲

誘引物の除去や防護、追い払いをしても効果が無い場合、人身事故の危険が高い場合、精神的被害が発生している場合は、有害捕獲を行います。有害捕獲の実施については、市役所や町役場に相談してください。



クマの目撃・痕跡情報をお知らせください

人里・山中にかかわらず、クマを目撃したり痕跡を確認した場合は、最寄りの市役所、町役場に連絡をお願いします。対策を検討し、被害を最小限にとどめるために必要です。

皆様からいただいた目撃・痕跡情報は、
森林動物研究センターのホームページで公開しています。

<http://www.wmi-hyogo.jp/> ツキノワグマ目撃情報

